

洋上の独立峰・利尻島

海面から立ち上がる火山島

利尻島は稚内市の海岸から約 20km 離れた位置に存在する外周約 60km のほぼ円形の島であり、島全体が利尻山からなる。

利尻山は標高 1,721m、20 万年ほど前に生まれ、7,000 年ほど前に活動を止めた火山である。全体としては裾を長く引いた富士山型の山であるが、山頂一帯は、やせた稜線に鋭くとがった岩峰群を突き立て、深い谷が何本も走り、荒々しい姿を呈する。沢はほとんどが涸れ沢であり、山麓には湧水が多い。山麓には側火山がいくつもあるほか、姫沼・オタドマリ沼などの湖沼や湿原がある。

島独特の気象

海面から高山が立ち上がる利尻島には、島独特の気象が見られる。一般に風が強く、山頂に近いところは特に強い。しかし、低地では島の片側は強風が吹いていても、反対側は無風であったり、島の半分が濃霧に閉ざされていても半分は晴天ということもある。

洋上にそびえる利尻山



Column

顕著な植生の垂直分布と高山帯の低下

独立峰という特性から、利尻山の植生は標高による変化がわかりやすい。狭い平地には海岸草原があるが、少し登るとトドマツを主とし、ダケカンバなどの広葉樹も交えた針葉樹の多い森林に移行する。標高約 500m より上部はダケカンバ、ミヤマハンノキなどの林でハイマツも出現する。1,100m あたりから上はハイマツや高山植物のお花畑となる。ハイマツ帯の出現する高度をほかの山と比べると、本州中部では約 2,400m、北海道中央部の大雪山では約 1,800m であり、利尻山ではずいぶん低いことがわかる。これは、より北方にあることと、気象条件の厳しい洋上の独立峰であるためである。

